

■指標

種類	指標名	単位	説明		平成22年度	平成23年度	平成24年度
活動指標	浴槽水水質検査回数	回	浴槽水残留塩素検査回数	目標	1212	1212	12112
				実績	1212	1212	
成果指標	法定4項目水質検査回数	回	検査機関が実施したレジオネラ菌を含む4項目検査回数	目標	2	2	4
				実績	2	4	
成果指標	開館日数	日	利用者の重大事故等を防止し、安全に開館した日数	目標	303	303	303
				実績	303	303	
				目標			
				実績			

■事務事業の点検

必要性の点検

法定受託事務であるなど、市が実施する義務がある

事業を休廃止した場合、市民生活(行政サービスの提供)に深刻な影響が発生する

社会情勢の変化を踏まえても十分なニーズがある(ニーズを説明できる)

【必要性 Total判定】

A:高い(義務) B:普通 C:低い

<Total判定の根拠など、必要性に関する補足説明>

目標達成状況の点検

活動に関する昨年度の目標は概ね達成できた

成果に関する昨年度の目標は概ね達成できた

「取り組み方針(改善方針)」など指標に表れない事項について昨年度の目標は達成できた

【目標達成状況 Total判定】

A:目標よりも大きな成果が得られた B:概ね目標の成果が得られた

C:目標とする成果が得られなかった

<Total判定の根拠など、目的達成状況に関する補足説明>

実施内容・方法の点検

社会情勢やニーズの変化等を踏まえると、サービス対象・水準を見直す必要がある

当該事業の受益者が特定の個人や団体に偏っている

民間事業者やNPOなどに任せられる業務がある

コストを下げる工夫が考えられる

成果を高める工夫が考えられる

【実施内容等 Total判定】

A:見直す余地があり直ぐに実施 B:見直す余地があるが時間が必要

C:見直す余地がない

<Total判定の根拠など、実施内容・方法に関する補足説明>

あじさい館管理職員が減少している中で、維持管理業務・来館者への対応が不十分になってしまったため、指定管理者制度等も視野にいれた管理の見直しが必要である。

■課題と対応方策

課題	施設の管理及び設備の更新が必要であるけれども、工事請負費・修繕費の予算縮小のため計画的実施が徐々に困難になってきている。
次年度における対応方策(改善方策)	施設管理については、設備機器も故障しないあいだはそのまま稼働し続けて故障等となったものから修繕・交換を実施して経費の抑制を実施する。
中長期的な視点での対応方策(改善方策)	建設後10年以上経過しているため、施設の点検等を定期的の実施して維持管理をしていくことが必要となる。

■今後の方向性

一次評価【課長評価】	
評価者	宮本 敏光 担当課名 あじさい館
事業の方向性	<input type="radio"/> このまま継続 <input type="radio"/> 改善して継続 <input type="radio"/> 休廃止 年後を目処) <input type="radio"/> 終了
事業費の方向性	<input type="radio"/> 増額 <input checked="" type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 減額
次年度の取組方針(改善方針)	施設の維持管理については、経費削減の点からも機器の更新をせず使用しているが、使用にも限界があり更新時期も考慮していくことが必要となる。

二次評価【部長評価】	
部長名	小松崎 延明 担当部名 教育委員会
確認	<input checked="" type="checkbox"/> 確認
	市民の安全を考慮し、施設の維持管理には特に注意が必要である。

■指標

種類	指標名	単位	説明		平成22年度	平成23年度	平成24年度
活動指標	防水改修工事に係る面積	㎡	防水改修工事に係る面積	目標		2,756	
				実績		2,756	
成果指標	電話改修工事に係る回線数	本	電話改修工事に係る回線数	目標		8	
				実績		8	
成果指標	整備進捗	日	防水改修工事に係る整備日数	目標		79	
				実績		58	
成果指標	整備進捗	台	電話改修工事に係る電話設置台数	目標		23	
				実績		23	

■事務事業の点検

必要性の点検

法定受託事務であるなど、市が実施する義務がある

事業を休廃止した場合、市民生活(行政サービスの提供)に深刻な影響が発生する

社会情勢の変化を踏まえても十分なニーズがある(ニーズを説明できる)

【必要性 Total判定】

A:高い(義務) B:普通 C:低い

<Total判定の根拠など、必要性に関する補足説明>

目標達成状況の点検

活動に関する昨年度の目標は概ね達成できた

成果に関する昨年度の目標は概ね達成できた

「取り組み方針(改善方針)」など指標に表れない事項について昨年度の目標は達成できた

【目標達成状況 Total判定】

A:目標よりも大きな成果が得られた B:概ね目標の成果が得られた

C:目標とする成果が得られなかった

<Total判定の根拠など、目的達成状況に関する補足説明>

実施内容・方法の点検

社会情勢やニーズの変化等を踏まえると、サービス対象・水準を見直す必要がある

当該事業の受益者が特定の個人や団体に偏っている

民間事業者やNPOなどに任せられる業務がある

コストを下げる工夫が考えられる

成果を高める工夫が考えられる

【実施内容等 Total判定】

A:見直す余地があり直ぐに実施 B:見直す余地があるが時間が必要

C:見直す余地がない

<Total判定の根拠など、実施内容・方法に関する補足説明>

あじさい館管理職員が減少している中で、維持管理業務・来館者への対応が不十分になってしまったため、指定管理者制度も視野にいれた見直しが必要である。

■課題と対応方策

課題	あじさい館施設自体が、開館して14年を超えているため各施設部分で経年劣化による改修が維持管理上必要になってくる。
次年度における対応方策(改善方策)	定期的に点検等を実施して、維持管理のための改修を実施していくことが必要となる。
中長期的な視点での対応方策(改善方策)	施設の計画的な改修工事を行い、維持管理を継続的に実施していくことが必要となる。

■今後の方向性

一次評価【課長評価】	
評価者	宮本 敏光 担当課名 あじさい館
事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> このまま継続 <input type="radio"/> 改善して継続 <input type="radio"/> 休廃止 年後を目処) <input type="radio"/> 終了
事業費の方向性	<input type="radio"/> 増額 <input checked="" type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 減額
次年度の取組方針(改善方針)	施設の維持管理については、常日頃からの設備の点検、整備が重要であるが機器の更新をせずに使用していることには限界があり更新時期も考慮していくことが必要なこと。

二次評価【部長評価】	
部長名	小松崎 延明 担当部名 教育委員会
確認	<input checked="" type="checkbox"/> 確認
	施設の維持管理に関する整備計画を策定しながら改修を進める必要がある。